

第2章 地区別計画

●「地区別計画」の推進について

(1) 地区別計画推進策定委員会について

平成26年度からは、地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指しつつ、第3期（平成28～32年度）計画策定を見据えた意見交換を活発に行う「地区別計画推進策定委員会」（以下、「地区別委員会」という。）が開催されています。委員は、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者など、地区の実状に合わせて組織されています。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われています。担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決するとともに、これまでの地域活動を継続し、団体間の連携体制をより強化することなどが求められています。地区別委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、計画の推進に係る各種情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組状況の把握や振り返りを行います。地区別委員会は、各地区の実状に応じて年間2～11回開催され、平成27年度は計画推進とともに、第2期計画を振り返り、第3期に向けた地域の課題や具体的取組について活発な意見交換を行いました。また、地区別委員会で話し合われた内容をより多くの地域の方々に周知するため、「地区別計画推進策定委員会通信」を各地区2回程度発行し、連合自治会等の協力の下、地区内での班回覧等を行いました。

(2) 地区支援チームについて

緑区では、区役所の運営責任職・保健師や社会福祉職、区社協責任職・職員、地域ケアプラザの所長・地域活動交流コーディネーター・地域包括支援センター職員（社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等）で構成される「地区支援チーム」が地区ごとに編成されています。そして、「地区支援チーム会議」を毎月開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や、地域展開している事業の情報、そこから分析した地域の課題などを共有し、解決策や取組について検討しています。こうして、住民主体の地区別計画の推進に向けた地域の取組支援、地区別委員会や地域住民の活動支援をしています。また、チームの支援の力量を向上させるため、研修なども行っています。（→P.8参照）

(3) 地区別計画推進策定委員会連絡会の開催

地区別委員会の委員長、地区支援チームのチームリーダーなどが参加する「地区別計画推進策定委員会連絡会」を4月と10月に開催しました。地区別委員会の開催状況や第3期計画策定を含めたスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換・意見交換などを行いました。

(4) 地区別計画推進活動報告

地区別委員会では、地区別計画の目標に向けた地域の本年度の取組状況を振り返るとともに、各地区の推進状況をまとめた「パネル」を制作しました。また、平成28年3月に開催した「社会福祉大会第2部」では、竹山地区、新治西部地区の代表者が取組状況の報告を行いました。（→P.77参照）

(5) 地区別計画推進に向けた各種制度の活用

地区別計画推進に向けて、区役所・区社協等による事業費補助制度を活用しています。平成24年度から継続している「地区別計画推進費（→P.7参照）」とあわせ、さまざまな補助金等の制度を活用し、地域住民の主体的な取組による地区別計画がさらに推進していくことを目指しています。

●平成27年度 地区別計画推進状況

＜平成27年度 地区別計画推進策定委員会 開催状況＞

地区名	委員数	回数	開催日	地区別委員会での主な検討概要
東本郷	31人	3	6/26 9/25 1/20	<ul style="list-style-type: none"> ◆新聞販売店との安否連絡体制を作り取組をすすめている。 ◆子どもの学習面で難しい問題を抱える家庭が増えている。学習ボランティアについて取組を検討していきたい。 ◆自治会役員の負担が大きく、担い手も不足している。また、自治会加入についても課題がある。
鴨居	26人	2	7/17 11/14	<ul style="list-style-type: none"> ◆ささえあいカードを出しているのは自治会に加入している人だけで未加入者の把握が難しい。自治会加入率をあげていきたい。 ◆ささえあいカードや黄色いリボンについて、活用の仕方を伝えていく工夫が必要。 ◆後継者が不足している。公募するなど次の世代につないでいく工夫が必要。
竹山	28人	2	6/4 12/4	<ul style="list-style-type: none"> ◆昔ながらの隣近所の助け合いの仕組みを作っていきたい。 ◆ささえあいカードのデータを平常時の見守りにも使えるようにしていきたい。 ◆高齢化が進んでいるが、若い世代も参加できるイベントの工夫や保育園等との連携を進めたい。
白山	30人	10	原則 毎月第 4土曜 日(4月 を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ◆安全・安心なまちづくりに向け、地域全体で取り組みたい。 ◆防災訓練や福祉まつりの取組は、成果が出ていると思う。 ◆地域で活動するボランティアグループ同士のネットワークを作っていくことも大切。
新治 中部	30人	2	6/22 12/14	<ul style="list-style-type: none"> ◆防犯キャッチフレーズの取組は、子どもたちが地域について考える機会になった。 ◆地域の活動や支援機関と関わりを持たない高齢者の見守りをどう行うかが課題。 ◆健康体操やウォーキングなどの健康づくりに関する取組は、年々参加者が増えている。これからも継続していきたい。 ◆子どもも含め、地域行事等で関わりを持ち、顔の見える関係をつくりたい。
三保	35人	2	6/20 11/21	<ul style="list-style-type: none"> ◆各自治会で同好会活動を行っているが、横のつながりが必要。相互交流をすすめられると良い。 ◆地区センター等の公共施設がない。自由に入出りでき、活用できる場が必要。 ◆振り込め詐欺や子どもへの犯罪なども発生している。学校・PTAと協力して防犯活動を強化したい。
山下	21人	2	6/22 11/25	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちを大切に育てるとともに、高齢化についても取り組んでいく必要がある。 ◆「防災ささえあいカード」の情報は、単位自治会で要支援世帯の情報を把握し活用してほしい。 ◆子どもの見守りや防犯についても課題として入れてはどうか。
新治 西部	29人	2	6/19 2/4	<ul style="list-style-type: none"> ◆各団体それぞれ取組を行っているが団体同士がつながり、連動できるとよい。 ◆若い人にも地域の行事を通して自治会活動に関わってもらえるようすすめている。気軽にできる範囲で活動できる人を募集していく予定。 ◆地域の認知症の方への声かけや対応方法に困っているが、まずは声をかけてみるのが第一歩。
十日市場 団地	23人	2	7/29 12/2	<ul style="list-style-type: none"> ◆昼食会などへの参加や配食が見守りや情報を伝えていく機会になっている。「お茶飲み会」も3年目を迎え、地域に定着してきている。 ◆防犯パトロールを通じた見守りもできるとよい。続けていくことで顔なじみになる。 ◆「住連通信」を通じて地域の情報を知ることができている。
霧が丘	25人	2	6/19 12/19	<ul style="list-style-type: none"> ◆霧が丘地区は緑区内でも高齢化率が高く、見守りは身近な問題である。「霧が丘見守りネットワーク」の取組を進めていきたい。 ◆健康チェックの参加者が増えており、取組の成果が出てきたように感じる。今後も継続していきたい。 ◆小・中学校を卒業すると、親同士のつながりが少なくなる。一人で地域行事に参加するのは勇気がいるので、ネットワークを大切に呼びかけていきたい。
長津田	31人	2	6/13 12/5	<ul style="list-style-type: none"> ◆各地域で活動しているグループの取組を伝えて共有し、活動を活発にしたい。 ◆高齢者も子育て中の方も日頃から声を掛け合い、助け合える関係にしたい。 ◆健康体操を取り入れた健康麻雀など、各自治会で介護予防の活動を進めたい。 ◆認知症サポーター養成講座などを通じて、地域の理解者を増やし、実際の相談などにつなげていきたい。
合計	309人	31		